茨城県県南地域の水田・休耕田に自生する絶滅危惧植物マルバノサワトウガラシDeinostema adenocaulum（ゴマノハグサ科）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00049790

村中孝司[1]・榎本友好[2]・平田晶子[3]・大谷雅人[1]・小幡和男[4]・渡辺　泰[5]：茨城県県南地域の水田・休耕田に自生する絶滅危惧植物マルバノサワトウガラシ*Deinostema adenocaulum*（ゴマノハグサ科）

Takashi Muranaka[1], Tomoyoshi Enomoto[2], Akiko Hirata[3], Masato Ohtani[1], Kazuo Obata[4] and Yasushi Watanabe[5] : A new locality of the critically endangered plant *Deinostema adenocaulum*（Scrophulariaceae）in paddy fields, Ibaraki Prefecture

茨城県牛久市の水田及び休耕田において，絶滅危惧植物マルバノサワトウガラシが出現したので報告する。

マルバノサワトウガラシ（ゴマノハグサ科）*Deinostema adenocaulum*（Maxim.）T. Yamaz. は本州，四国，九州の水田や湿地に生える小型の一年生草本である。近年では，土地造成，池沼・湿地の開発，休耕田の植被の発達，除草剤の散布などによって全国的に急速に減少しつつあり，絶滅危惧 IB 類（環境庁 2000）に選定されている。茨城県においても県央地域で稀に確認されるにすぎないとされ（鈴木他 1981），レッドデータブックにおいては希少種として掲載されている（茨城県生活環境部環境政策課 1997）。近隣地域においても，ランクはそれぞれ異なるものの絶滅のおそれのある植物に選定されている（千葉県環境生活部自然保護課 1999；埼玉県環境生活部自然保護課 2005；栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館 2005）。

今回確認した自生地は牛久市内を流れる小野川に近い水田および休耕田の計 2 ヶ所であり，県南地域においては，初の記録である（Fig. 1）。なお，2 ヶ所の自生地は約 500 m の間隔がある。2003 年には，休耕田においてわずかに 1 個体の生育しか確認することができなかったが，2004 年 9 月には合計 15 株，2005 年には主に水田において約 50 株を確認することができた。2 ヶ所の自生地には，アゼトウガラシ，サワトウガラシ，キクモ，シソクサ，キカシグサ，ミズネコノオ，ウリカワ，ホシクサ，イボクサ，オモダカ，コナギ，タマガヤツリ，チョウジタデなどの水田や湿地に特有の植物が優占しており，その中には，環境庁（2000），茨城県生活環境部環境政策課（1997），牛久市（2005）において絶滅危惧植物に選定された種が多数含まれていた。ただし，2 ヶ所の自生地のうち休耕田においては，水田管理放棄 2 年後にメヒシバなどが優占して乾燥化が進行しつつあり，水田雑草は一時的に衰退したが，2005 年には水田として利用されるようになったために，水田雑草が回復した。記録された期間を通して確認された個体数は少ないものの，一つの地域個体群として存続している可能性がうかがえる。なお，採集された標本（標本番号：INM–2–40315, INM–2–40316；村中孝司ほか採集）はミュージアムパーク茨城県自然博物館の標本庫に納めた。

本報告における植物分布情報は，牛久市における絶滅のおそれのある野生生物（植物編）（牛久市 2005）の作成のための植物相調査の際に得られたものである。植物調査員の方々並びにミュージアムパーク茨城県自然博物館，牛久市植物調査ボランティア，東京大学，筑波大学，牛久市役所，牛久自然観察の森，NPO 法人うしく里山の会の



Fig. 1. *Deinostema adenocaulum*（Maxim.）T. Yamaz. at Ibaraki Pref.（Sep. 16, 2004）

皆様にはたいへんお世話になった。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

茨城県生活環境部環境政策課．1997．茨城における絶滅のおそれのある野生生物ー茨城県版レッドデータブックー〈植物編〉．253 pp．茨城県生活環境部環境政策課，水戸．

牛久市．2005．牛久市における絶滅のおそれのある野生生物（植物編）．157 pp．牛久市，牛久．

環境庁．2000．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー植物Ⅰ．自然環境研究センター．660 pp．環境庁，東京．

埼玉県環境生活部自然保護課．2005．改訂さいたまレッドデータブックー埼玉県希少野生生物調査報告書　植物編ー．358 pp．埼玉県環境生活部自然保護課，浦和．

鈴木昌友・清水　修・安見珠子・安　昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也．1981．茨城県植物誌．339 pp．茨城県植物誌刊行会，水戸．

千葉県環境生活部自然保護課．1999．千葉県の保護上重要な野生生物ー千葉県レッドデータブック　植物編．435 pp．千葉県環境生活部自然保護課，千葉．

栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館．2005．レッドデータブックとちぎー栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物．898 pp．栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館，宇都宮．

([1] 東京大学農学生命科学研究科．〒113–8657　東京都文京区弥生 1–1–1；[2] 牛久市建設部緑化推進課．〒300–1292　茨城県牛久市中央 3–15–1；[3] 筑波大学生命環境科学研究科．〒305–8572　茨城県つくば市天王台 1–1–1；[4] ミュージアムパーク茨城県自然博物館．〒306–0622　茨城県板東市大崎 700；[5] NPO 法人うしく里山の会．300–1212　茨城県牛久市結束町 489–1　牛久自然観察の森内

[1]Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo, 1–1–1 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113–8657, Japan; [2]Greenery Promotion Division, Construction Department, Ushiku City Hall, 3–15–1 Chuo, Ushiku-shi, Ibaraki 300–1292, Japan; [3]Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, 1–1–1 Tennodai, Tsukuba-shi, Ibaraki 305–8572, Japan; [4]Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando-shi, Ibaraki 306–0622, Japan; [5]Nonprofit Organization Ushiku-satoyama-no-kai, 489–1 Kessoku-cho, Ushiku-shi, Ibaraki 300–1212, Japan)